

校名：静岡大学教育学部附属浜松小学校

所在地：〒432-8012 静岡県浜松市布橋三丁目2-1

電話番号：053-455-1441

記載日：平成28年5月10日

記載者：大村 高弘

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は昨年度、創立100周年の年となった。この本校教育の源流は、開校時の大正自由主義教育に遡る。子どもの個性や創造性を重視した自由で澆漓とした学習と生活は、今も本校の教育活動に通底している。その後、国民教育や愛郷心の理念が大切にされ、戦後は経験主義カリキュラムの開発、系統学習、体験的活動の重視、自己教育力の涵養、生きる力の育成と続いていく。これを踏まえて今後の21世紀を生き抜く資質・能力を育成する観点からも、本校が伝統的に大切にしてきた、子どもの事実から出発する教育、体験活動の重視、問題解決を軸にした学習等が今後も継続されるであろう。

現在の学校教育目標は「未来を拓き、生きる子ども」であり、今後の厳しい挑戦の時代に対応できる力を育成することを目指している。カリキュラムにおける特色は、教育課程特例校として、教育活動を3領域で構成しているところである。「教科」「総合」「生活創造」の三つを有機的に関連させる中で、生きる力の育成を目指している。

保護者や卒業生は本校の教育活動に対してたいへん協力的であり、積極的なPTA活動はもちろん、ゲストティーチャーや学習ボランティアとしての支援も本校の大きな力となっている。さらに、同じキャンパスにある中学校との連携、近距離にある静岡大学浜松キャンパスとの交流なども進めている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

本校の卒業生は静岡県、浜松市はもちろん、全国で活躍しており、その職業は企業経営者、医療関係者、研究者、芸術家、教育者などたいへん多彩であり、地域を支える人材となっている。昨年度は、創立100周年記念事業を実施したが、その際には、地域を支える業界人や名士と言える卒業生から多大な協力を得ることができた。

なお、卒業生で構成される組織としては、附属浜松小中学校同窓会があり、卒業生の住所・連絡先等について調査がなされ、同窓会名簿が作成されており、この名簿は5年に1度の改定がなされている。同窓会事務局は中学校におかれ、例年11月には同窓会の総会・懇親会が盛大に開催されている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校勤務関係者は、一旦公立学校に戻った後、学校を管理する立場や教員を指導する立場として地域で活躍するものが多い。勤務状況を見ると、現役の教職員61名中、本校勤務経験者の多くが、浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、森町において、校長（9名）・教頭（6名）・主幹教諭（4名）等、学校運営の要として活躍し、大学准教授（2名）文部科学省職員（1名）、県・市教育委員会指導主事（3名）としても学校現場の指導に当たっている。

また定年を迎えた旧教職員の中に、地元の大学において特任教授等として、学生の指導にあたるものもある。

なお、附属浜松小中学校勤務経験者の組織「あけぼの会」があり、例年4月29日に懇親会を開催している。この懇親会への案内への返信により、住所・連絡先・勤務先等を把握し、あけぼの会名簿を作成している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

#### ○研究活動における公立学校との連携

##### ・各教科での連携

毎年、各教科ごとに研究サポーター、研究協力員を公立学校に依頼している。研究発表会への協力はもちろんのこと、教科によっては平常の授業を見にきてコメントしてくれる方もおられ、連携の要となってくれている。

##### ・研究成果の発信

研究会誌『楷樹』を年2回、定期的に発行している。本校の教育研究の成果、各教科での提案内容、研究協力委員の自校における実践結果、研究発表会講演会の内容、有識者による寄稿などにより構成されている。全国の国立大学附属小学校、静岡県内の全小学校・教育委員会、本校研究の関係者に対して送付しており、本校の研究を広報するとともに、感想や助言をいただくことで、さらなる研究推進に活用している。

#### ○体験活動を重視した学校行事

##### ・「林間学校」

5・6年生児童が、例年秋に2泊3日で富士市の朝霧高原野外活動センターを開催場所として実施している。学校からテント・すのこ・炊事用品等をキャンプ地に運びこみ、教師は支援者に徹し、子どもの手でキャンプ生活を進めさせている。2日目は、富士宝永山、竜ヶ岳、パノラマ台などのコースに分散して日帰りの登山を実施している。

##### ・「自然学校」

3・4年生児童が、例年秋に1泊2日で浜松市の観音山少年自然の家を開催場所として実施している。山頂登山、ナイトウオークラリー、冒険ラリー、沢登りなどを活動内容とし、自然体験をしつつ仲間との共同宿泊をしている。

・「体験旅行」

5・6年生児童が、例年秋に2泊3日で行先は京都・奈良方面と広島・宮島方面とを隔年としている。2日目は、子どもたちが立てた計画に従って、グループごとの探索活動を行っている。また、広島では被爆体験伝承者とのかわりを通した平和学習を行っているのが特色と言える。

・「くらた祭」

3・4年生児童が例年秋に実施している。大正8年、「土のおじいさん」と親しまれた学校付近に住む倉田宇之吉という方が農業体験実習を指導してくれたのが始まりとなり、現在も継続されている。児童は夏のころから野菜を栽培する。祭り当日にそれを収穫し、かまどをつくって野菜を煮、昼食としている。

倉田宇之吉はお礼を一切受け取らなかったと言われる。昭和10年には、その顔をレリーフにした記念碑が建立されている。

○その他の特色ある取組

・「小中連携教育」

同じキャンパス内に隣接する附属浜松中学校と連携して教育を進めている。本年度は、教育研究における連携として小中共同テーマの設定や互いの授業研究会への参加、夏期合同研修会の開催等を行う。また、児童・生徒の活動として、合同の奉仕作業・下校訓練・陸上練習・音楽練習・英語学習等での交流を実施する。

・「大学との連携」

静岡大学留学生が本校を訪問し、交流を深める行事を計画している。現在計画を練っており、全校での集会活動、英語活動への参加等が案としてあがっている。

・「トップガンプロジェクト」

大学や地元の民間企業、公立学校の協力を得ながら、「理数系（イノベーション）人材育成」のための先導的な取組を進めている。大学教員による課外講座、民間企業・他大学の講師による講座、浜松キャンパス敷地内にある「天神森」のフィールドワークや調査・研究活動などを、興味をもつ児童生徒が課外活動的に実施している。附属浜松中学校に事務局があり、この詳細については中学校の方の資料で述べる。

・「英語教育の推進」

以前から英語教育を先取りし、小学校1年生から計画的なカリキュラムをもとにした学習がなされている。力量のあるALTが小中兼務で常駐しており小中一貫した指導が進められている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

例年秋に開催する研究発表会には、県内外はもとより、全国から合わせて400名ほどが参加している。その中で、地域の公立学校の教員が研究協力員あるいは研究サポーターとしてかわり、本校の先導的な取組を公立学校でどう実践できるかについて、分科会で発表していただいている。このシステムが、地域の公立学校の教員と本校の取組とをつなぐ役目を果たしている。

また、本校には地域連携室が設置されている。平日の夜間等に、地域の教員の教科研究サークル（算数・国語・図工等）活動が定期的で開催されており、地域の大学教授、教育委員会指導主事等がメンバーに加わることもある。また、この部屋で公立学校管理職を招いての教育実習説明会、小学校教員資格認定試験等も実施され、連携協力体制が整ってきている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

以前、文部科学省で生活科や総合的な学習の時間の創設が検討されていた頃、本校の研究実践の成果が生かされたことを聞いている。また、その後は、実践に当たっての手引や実践資料が地域の公立学校の教員のために役立てられている。先導的な取組により、国や地域のため貢献したいとの思いは今も教員の中に生きており、先導的な教育研究による教育界への貢献は今後も大きな使命といえる。

浜松市・磐田市など、本校所在あるいは近隣地域では、小中一貫教育の取組が始まっている。現在、行政が主体になって推進がなされているが、カリキュラムの一貫性の確保、教員の意識の共有化、保護者の理解などが課題となっている。こうした課題の解決は、学校内部からの改革が必要であり、本附属小中学校のような研究機関としての長所を生かし議論と実践を重ねることで、地についた形での推進ができるものと考えている。現在、教育研究においてコンピテンシーベースの教育を目指した小中共通テーマを検討しており、将来的には義務教育学校化も展望している。

さらに、現在実施されている教員免許更新制において、教育委員会との連携を図りながら、本附属学校が貢献できる道を探っている。教育の最先端の知見と実際の実践とをつなぐためにどうしたらよいか、本附属小中学校教員の授業や研究報告が活用できるものと考えている。今後、教育委員会等との交渉を進めていきたい。